

平谷こども発達クリニック院長 平谷美智夫さん

TEL.0776-54-9600

住所 福井市北四ツ居2-1409



### 【Profile】

昭和46年 金沢大学医学部卒業  
 昭和63年 金沢大学医学部講師を辞し、  
 福井県小児療育センターへ赴任  
 (県立病院小児科を兼任しアレルギー外来担当)  
 平成13年 平谷こども発達クリニック開設  
 (小児科：アレルギー科・児童精神科)  
 ※昭和60年7月ー62年7月  
 アメリカ合衆国クレイトン大学アレルギーセンター留学  
 ※医学博士論文  
 ダニアレルギー児童のリンパ球の反応と減感作療法による  
 その変化

教えてDr.

## 子どものアレルギー

### 子どものアレルギー性疾患について

日本はワクチン後進国と言われてきましたが、ここ数年やつと先進国なみになってきました。私は小児科医になって42年になります。昔は麻疹(はしか)をいっばい診たものですが、今でははしかをみたことのない小児科医が普通になり、肺炎や髄膜炎も少なくなりました。今、小児科外来では発達の遅れの相談と並んで多いのがアレルギー性疾患です。

アレルギーは、発症機序によってI型〜IV型に分類されますが、一般にアレルギー性疾患というとき型アレルギーによる場合を指します。大雑把にいいますと、I型アレルギーはアレルギーを起こす細胞(肥満細胞)に結合したIgeというタイプの免疫グロブリンに卵・杉花粉・ダニなどのアレルギーが結合して起こります。この反応はアレルギーが体内に入るとすぐ(10分ぐらゐ)に生じ、即時型過敏と呼ばれます。ソバを食べた次の日に蕁麻疹が出て、ソバは普通は犯人ではありません。反応が激しく、全身性のものをアナフィラキシーと呼び、さらに急速な血圧低下によりショック

状態を呈したものをアナフィラキシーショックといいます。

子どものアレルギー性疾患は年齢によつて発症する疾患が徐々に変わることが多いのでアレルギーのマーチと呼ばれることがあります。日常よく見られるアレルギー性疾患を後発年齢の順に表1にあげてみます。症状のすべてがアレルギー反応によるものではありませんので、アレルギーばかりを原因と思つて対応すると大きい間違いをおかします。

次回から、それぞれのアレルギー性疾患の診断・治療についてお話しします。

表1.子どものアレルギー疾患

食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・気管支喘息・アレルギー性鼻炎(ハウスダストが関与していることが多い通年制のタイプと杉などの花粉が関与する季節性がある)・花粉症(鼻炎・結膜炎がある)